

令和 4 年度 旭地区 わくわく事業 実践報告書

令和4年度は、12の団体が、精力的な活動を展開しました！

事業名	団体名	主な活動場所	頁
横のつながりづくりによる少数化社会の自治力向上事業	むすびめ旭	旭地区	1
広畑 さとやまプロジェクト	広畑さとやまプロジェクト	小渡町	3
しきしま重点プロジェクト推進事業	しきしま重点プロジェクト推進チーム	敷島自治区内	5
安否確認旗の活動	幸せの黄色いハンカチ運動の会	大坪町	7
地域の施設とコミュニティ、特色を活かした、魅力ある子育ての環境整備事業	みんなのしきしまプレーパーク	敷島会館前広場	9
旭中サンライズプロジェクト事業	旭中サンライズプロジェクト	旭地区	11
持続可能な農村モデルづくり事業	歴史と自然豊かな押井づくりの会	押井町	13
旭の木を使おまい事業	旭もくもく会	旭地区	15
ヤギとわくわくプロジェクト	ヤギ飼いの会	旭地区	17
地域性を活かした景観向上事業	惣田花樹の会	惣田町	19
林育推進事業	あさひ根っ子の会	旭地区	21
森は私たちを育て いつかは田舎へ事業	あさひガキ大将養成委員会	旭地区	23

【旭地域会議からのお知らせ】

より多くの方に、旭地区のわくわく事業の実施状況をお知らせするために、平成30年度から、各団体の活動状況を取りまとめた報告書を回覧しています。

1年間の活動の成果を、ぜひご覧ください！

横のつながりづくりによる少数化社会の自治力向上事業

団体名：むすびめ旭

代表者：鈴木 啓佑

補助回数：1

活動場所：旭地区



事業の目的

【事業目的】コミュニティデザイン・ラボ「むすびめ旭」は、きたる少数化社会に向けて、少ない人口でも旭地域の強い自治力を維持するため、人と人の横のつながりをつくりまた研究することにより、課題や要望などの情報共有と協力体制を促すことで、「地域が助け合い安心して暮らせるまち 旭」を目指す。

【今年度事業（計画）】①よりよい関係性づくり研究 ・講演会3回（講師studio-L西上ありさ氏、M-easy 戸田友介氏、(株)エール篠田真貴子氏）、・より良い対話研究会10回 ②つながる仕組みづくり研究 ・調査、フィールドワーク8回 ・定期情報交換ミーティング8回 ・暮らしの保健室12回 ・イベント企画（電気の自給力を高めるDIYソーラーシステムの薦め講座2回、暮らしの自給力を高める野草散策の薦め講座2回、移動の自給力を高めるノルディックウォーキングの薦め講座2回、浅野自治区を歩こう！ノルディックウォーキングにトライ4回）

今年度の活動内容

●講演会3回 ●より良い対話研究会10回 ●調査・フィールドワーク5回 ●暮らしの保健室9回 ●イベント開催7回

事業効果

●講演会は視聴者数としては想定程度得られた。YouTubeへ録画をアーカイブ化したので、旭地区内で引き続き試聴してもらうことができるようになっている。●共感カフェは、まず構成員および関係者が指導できるようにと進めていたが、一般募集を始めてからの一般参加者の参加は想定をかなり下回った。ボランティアセンターへ協力を依頼した。●暮らしの保健室はチラシの変更を重ねたり、企画を変えたりしたが、参加者が思うように集まらなかった。ヒアリング調査によると、支援を必要とする人しか参加してはいけなような印象を与えているようである。今後はアプローチの変更など工夫が必要である。●交流イベント企画では、普段会うことのない人たちの出会いの機会をつくれた。ただし、その先の主体的なグループ化への働きかけが弱かったため、今後はその点にも力を入れたい。●実施できなかった交流イベントが3件あった。予定を詰め込みすぎであった。

補助金交付額と内訳（補助率 9割）

補助金交付額 1,000,000円

報償費（320,760円）旅費（3,628円）消耗品費（101,790円）食糧費（19,512円）印刷製本費（43,410円）手数料（113,479円）委託料（375,210円）使用料（3,672円）、備品購入費（19,179円）

活動状況



ルディックウォーク



暮らしの自給力を高める
雑草博士の話聞いてみよう！



雑草肉団子入り芋煮

広畑 さとやまプロジェクト

団体名：広畑さとやまプロジェクト

代表者：三嶋 秀樹

補助回数：1

活動場所：小渡町



事業の目的

【事業目的】高齢化や人口減、生活スタイルの変化から山の手入れが行き届かなくなっており、付近の景観や日当たりも悪くなっている。さらには土砂崩れ等災害にもつながる。そこで、間伐や伐採をし、景観や日当たりをよくするとともに身近な山を公園等整備することで山を守る必要性を住民に理解してほしい。伐採した付近を公園として整備することで日当たりもよし、近くを流れる介木川や民家を明るく、より過ごしやすい町にしたい。
【今年度事業】・専門家の指示で現地調査・伐採、間伐の全体計画の作成・チェーンソー等道具の整備と使い方講座・登山道の整備・丸太ベンチ等の設置による公園整備・身近な山に公園を整備しよう！の実施

今年度の活動内容

●5月 打合せ等 とよたSDGsパートナーへの登録 ●6月～9月 委託業者との打ち合わせ、備品購入等
●10月 第1回講習会及び作業 ●11月（7日間） 委託作業実施及び立ち合い ●2月 第2回講習会
及び作業、反省会及び次年度計画協議

事業効果

●日の当たる時間が20分程度早くなったことで、町の温度が上がり、省エネ効果が具体的にどれくらいあったかなど、数値化できるといえると思われるが、町の人々が早く明るくなった実感の口にしてくれた。今後の継続意欲につながった。●里山への関心も上がり、若い世代の協力も増えた。●今後も伐採範囲を広げ、頂上付近を整備することでさらに効果が明らかになると実感できた。●冬季の太陽の動きを確認し、次年度の作業場所の計画を立てることができた。●公園整備は思うように進まなかったが、切り株を利用してテーブルにしたり、伐採した木を整理したりしてすにするなど簡易な整備はできた。

補助金交付額と内訳（補助率 9割）

補助金交付額 1,000,000円

委託料（900,000円）備品購入費（72,720円）燃料費（6,120円）消耗品費（59,884円）保険料（4,500円）報償費（18,000円）

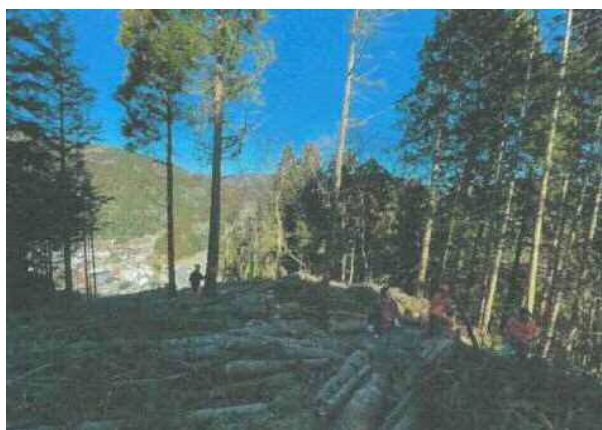
活動状況



講師による指導



作業の様子



明るくなった頂上



切り株を利用したテーブル

ししま重点プロジェクト推進事業

団体名：ししま重点プロジェクト推進チーム

代表者：鈴木 辰吉

補助回数：1

活動場所：敷島自治区内



事業の目的

【事業目的】「ししま・ときめきプラン2020」に定めた3つの重点プロジェクト「支え合い社会創造」「農地保全」「未来への構造改革」を目標年度である令和6年度までに大きく前進させ、地域自治先進モデルを構築する。もって、持続可能でしなやかなコミュニティの下で、子どもから高齢者まで誰もが安心して幸せに暮らせる地域社会を実現する。

【今年度事業】①旧杉本保育園に誰もが立ち寄れる活動拠点を整備 ②支えあいシステム調査 ③全戸アンケートの実施、ガイドラインの策定 ④重要歴史資源等のデジタルアーカイブ化 ⑤未来への構造改革に向けたアンケート調査、ガイドライン作成 ⑥古文書、写真など重要歴史資源等のデジタルアーカイブ化

今年度の活動内容

●拠点整備に向けた空き家片付け（5月、20人） ●地元大工を講師に木質化DIY講座実施（8月、12月、4回、延60人） ●ししまの家内覧会（11月、100人） ●ししまの家ホームページ開設（12月） ●協賛金募集・クラウドファンディング実施（12月～1月） ●事業推進に向けた集落説明会（7月～11月、15回） ●4つのプロジェクト会議（4月～2月、30回）

事業効果

●拠点となる「ししまの家」を令和5年4月1日にオープンした。●自治区内、関係人口をつなぐデジタルツールとしてHPを立ち上げた。●協賛、クラファンを通じて自治区内、関係人口との連携が深まった。●デジタルアーカイブが、予算の都合で次年度対応となった。

補助金交付額と内訳（補助率 9割）

補助金交付額 1,000,000円

報償費（72,000円）印刷製本費（60,000円）手数料（81,000円）委託料（427,000円）使用料（17,000円）工事請負費（300,000円）原材料費（43,000円）

活動状況



空き家片付け



D I Y 講座



しきしまの家 お披露目会

安否確認旗の活動

団体名：幸せの黄色いハンカチ運動の会

代表者：安藤 幸典

補助回数：2

活動場所：大坪町



事業の目的

【事業目的】①隣人・町内会相互の安否確認をすることができる。②不測自体の早期発見ができる。③犯罪の抑止になる。④町民の「助け合い」「連帯」意識が高まる。⑤気力、体力の低下、病気、認知症などの早期発見ができる。

【今年度事業】・旗の注文、購入配布・毎月担当者による安否確認をする。充実も図りたい。・看板周りの草刈りを実施する（5か所、6月・9月の2回）。・事業報告、会計報告等をする。

今年度の活動内容

●高齢者を対象に月1回安否確認を実施（延159通） ●看板周辺の草刈り作業（6月、9月） ●旗の出し入れについての指導（随時） ●近隣への普及活動

事業効果

●大坪町の入口に「安否確認の活動実施中」の看板を立て、町内各戸に黄色い旗が林立していますが、町内の連携と団結を自他共に感じる光景です。安否確認は、高齢者の方から「時々来てくれるのが嬉しい」との声があり、その言葉を励みにこの活動が続いています。この事でそれぞれの方の健康状態が把握出来ています。こんな関係性により、ゴミ出しや電球交換などちょっとした援助も生まれています。

補助金交付額と内訳（補助率 9割）

補助金交付額 85,000円

消耗品費（85,000円）

活動状況



黄色い旗の準備



町内各戸に立てられた黄色い旗



「安否確認の活動実施中」看板
周辺の草刈作業

地域の施設とコミュニティ、特色を活かした、魅力ある子育ての環境整備事業

団体名：みんなのしきしまプレーパーク

代表者：柳澤 二郎

補助回数：3

活動場所：敷島会館前広場



事業の目的

【事業目的】①子どもの居場所が欲しいというニーズと、子どもの育成のためになにかできたらというニーズを効果的につなげる。②子どもが自由に遊び学ぶことのできるプレーパークを設立することで、地域の子どもの「活動の場」と世代を超えた住民の「交流の場」を創出する。③より良い子育て環境をつくり、次世代にとって地域の魅力創出につなげる。

【今年度事業】月1回の定期開催を軸に不定期開催を新設、持続可能な運営組織の礎を構築、より多くの地域の力を活かし、関係機関・組織の協力を得ながら魅力を発信し、子育て家庭の定住先としての競争力向上につなげる。

今年度の活動内容

感染症の影響で難しい状況であったが、スケジュールは遅れながらも、期初想定していなかった他機関からの協力も得られ効果的な開催を継続できた。

地域の方々から、物品提供のご協力のお申し出を多くいただき、子どもに対する優しさや子育て環境に対する行動力といった地域の魅力を一段と「見える化」することができた。

●開催回数：15回（日） ●参加人数：延513名（こども 259名、大人254名） ●参加地域：旭、小原、足助、下山、みよし、名古屋、尾張旭、刈谷、豊橋ほか

事業効果

●ひまわりネットワーク地域ジャーナル、子育て男塾、豊田市男性保育士連盟など他地域機関と連携・発信することができた。●ガキ大将養成講座、むすびめ旭など地元団体との協業も発信力のある取組みにすることができ、来年度にむけ効果を高め持続する期待が持てた。

補助金交付額と内訳（補助率 9割）

補助金交付額 310,000円

報償費（230,535円）旅費（14,742円）消耗品費（50,000円）印刷製本費（10,826円）使用料（4,371円）備品購入費（18,000円）

活動状況

『子ども応急手当 くすり箱編』開催 マナビパークVol.2

参加 20名 (子ども10名/大人10名)



『みつろうラップづくり』共催 マナビパークVol.5

参加 34名 (子ども14名/大人20名)



旭中サンライズプロジェクト事業

団体名：旭中サンライズプロジェクト

代表者：後藤 光弘

補助回数：3

活動場所：旭地区



事業の目的

【事業目的】旭をふるさととする旭中学校の生徒が、仲間や地域の人々と共働しながら課題を解決するために、旭中学校の教育課程での学びを生かし、地域の活性化を目指し活動することを目的とする。

【今年度事業】R4年度わくわく事業テーマ「あさひこねくしょん！」（地域住民の交流の活発化）

①旭観光協会「旭マルシェ」の参加（足湯、ドクターフィッシュイベント、古着リメイク小物販売）②自治区の清掃活動参画（自治区の清掃活動と一緒にいき、終了後に足湯などで交流を深める）③わくわく事業の活動を地域内外にSNS発信 ④旭中地域会議の実施

今年度の活動内容

令和4年度「あさひこねくしょん」

●旭地区内の交流活動の活性化を目的として、地元開催のマルシェイベント「あさひ照ラス」にイベントブースを出展し、足湯の提供、古着をリメイクした小物の販売、地域内美化を呼びかけるためのゴミ拾い活動を実践した。●地域の人々との協力により、イベントに向けた準備を充実させたり、当日、来場者との交流を深めたりすることで、地域内の交流を進めることができた。

事業効果

●今年度の課題を旭地区内の交流活性化と位置付けて、足湯、古着リメイク、ゴミ拾い、SNS発信をすることとした。●地元の観光協会と協力をしたことで、学校の仲間だけでなく地域の人と共働するよさを実感した。●SNS発信などの方策により、旭地区以外の多くの方にも旭マルシェの来場を促し、旭地区を広く知ってもらった。

補助金交付額と内訳（補助率 9割）

補助金交付額 276,000円

委託料（148,500円） 使用料（41,400円） 消耗品費（11,733円） 報償費（13,500円） 食糧費（11,133円） 備品購入費（32,412円） 手数料（12,600円） 印刷製本費（5,391円）

活動状況

「あさひこねくしょん！」 あさひ照ラス への出展



足湯



古着リメイク小物販売



ドクターフィッシュ



ゴミ拾い活動

持続可能な農村モデルづくり事業

団体名：歴史と自然豊かな押井づくりの会

代表者：鈴木 辰吉

補助回数：4

活動場所：押井町



事業の目的

【事業目的】押井町内の貴重な歴史資源と周辺の豊かな自然環境を守り、関係人口となる人々の助けを活かし、ともにつくる持続可能な農村モデルを探求する。

【今年度事業】①ふるさとアーカイブプロジェクト（押井町の人物・歴史・自然の取材記事、調査および記録をホームページに掲載することで地域資源の魅力を見える化し、後世に残す）②オープンコモンプロジェクト（地域を開き、減少する住民のみによる「住民自治」から関係人口とともにつくる「関係自治」に転換することでふるさとを守る）・交流拠点づくり事業・里山整備事業『みんなの森 新・入会地 open commonプロジェクト』・農地保全事業『源流米ミネアサヒCSAプロジェクト』・自然環境保全事業『ビーフォレストプロジェクト』・自然環境保全事業『ふくろうとともに生きる里づくり 押井の里ふくろうプロジェクト』・子どもと農村のつながりづくり事業

今年度の活動内容

●押井の歴史と暮らしデジタル写真館作成（3回）●オープンコモンプロジェクト：みんなの森事業（2回）●自然環境保全事業：日本みつばち事業（3回）ふくろう生息調査（5回）●人工林間伐と広葉樹林回復活動（12回）●蜜蝋ラップづくりワークショップ（1回）●庭園環境整備に係る講演会および施工プランニングワークショップ（1回）

事業効果

●時期の変更はあったものの、概ね予定通りに実施できた。●押井の里ビーフォレストプロジェクトでは、わくわく事業を活用することにより、押井町内以外の幅広い参加者を募ることができ、旭地域を超えた20名以上の大きなグループをつくることができた。以前は、すべて自己負担で開催していたため参加費が高くなることと、また、会場がちんちゃん亭であったので、地元の人に参加しづらいことが反省点としてあった。令和4年度はわくわく事業により参加費を低く抑えることができ、旭農林会館で旭マルシェと同時開催することで、参加しやすくなったと思われる。●交流拠点づくりおよび普賢院周辺の森づくりの新たなスタートとなる節目の年度であったが、調査および計画等順調に進めることができた。

補助金交付額と内訳（補助率 9割）

補助金交付額 994,000円

報償費（110,142円）消耗品費（83,996円）燃料費（3,727円）手数料（238,000円）保険料（5,825円）委託料（540,045円）使用料（1,080円）原材料費（11,340円）

活動状況



自然観察会



みつろうラップ作り

旭の木を使おまい事業

団体名：旭もくもく会

代表者：伊藤 浩二

補助回数：4

活動場所：旭地区



事業の目的

【事業目的】旭地区が豊富に持つ森林資源及び人的資源を活用し、高齢者の健康と生きがいを持たせながら、旭の木材を活用し、統一感のある街並みとして景観を整備、観光拠点として地域活性と森林の循環的維持を図る。

【今年度事業】販売施設3棟、ベンチ6基設置、既木質化箇所約100㎡の防腐塗装、旭マルシェ会場等で木工体験ワークショップを実施し旭産材をPR

今年度の活動内容

●旭産木材による旭マルシェ会場の木質化及び木工体験により木材のPRを行った。●販売施設3棟、木製ベンチ6基、既設木質化施設の維持補修●木工体験11回

事業効果

●旭産木材の活用促進とPRを行ったことにより、森林の環境整備の大切さを市民に知らせることができた。また、旭＝木材の地としても広めることができた。

補助金交付額と内訳（補助率 9割）

補助金交付額 443,000円

原材料費（125,000円）手数料（131,900円）備品費（64,000円）報償費（20,300円）使用料（86,600円）保険料（15,200円）

活動状況



木工体験



屋台・ベンチ作成



屋台・ベンチ設置

ヤギとわくわくプロジェクト

団体名：ヤギ飼いの会

代表者：川合 美佳

補助回数：5

活動場所：旭地区



事業の目的

【事業目的】①生き物との交流の場を提供（子どもたちに命の大切さや温かさを感じて学ぶ機会を提供。また、高齢者には元気を与え、生きがいに貢献する。回想法やアニマルセラピー効果としても有効）②地域にワクワクの場の創出・場づくり・繋がりづくり③地域材の有効活用により、その価値の再考を促し、旭の恵み（山の幸）として享受する。

【今年度事業】・ヤギとのふれあい会（出張ふれあい会実施）・ヤギの繁殖（種付け、出産に挑戦）

②旭地域材を活用したファームを拡充

③ヤギによる除草実験（耕作放棄地や畑の除草実験）

今年度の活動内容

●出張ヤギふれあい会（6回）●ファーム解放（常時）●ファーム拡充（常時）●ヤギ繁殖●勉強会（2回）

事業効果

●今年度も、ヤギがいることで様々な出会いや体験をすることができました。はじめはこわかったり、戸惑ったり、興味がないような方でも、次第にヤギに触れ、ヤギを知り、ヤギとのふれあいを通して、何かの発見や、楽しみを得ている様子を見るのが活動を通しての喜びとなっています。●活動としては、まだまだコロナの影響が大きく、（特に高齢者を対象にした）ふれあい会は断られることが多々あり、かなり計画より縮小となりました。また、人が集うワークショップなども、同様の理由から自粛となり非常に残念でした。ただ、個人的には屋外での活動であることと、こんな時だからこそ、日常の中に癒しの時間が持てるのかなと思ひ、少人数でのファーム訪問の機会を意識的に増やし、たくさんの方にファームに来ていただけた1年でした。●冬のエサ不足が課題となっていますが、大規模に大豆を栽培している方より、豆殻の提供を受けたり、近所の方々が野菜や常緑樹の枝を運んでくれたり、人々の協力により、無事に冬が越せました。●「ヤギ飼いの会」としての活動は今後も続けていきますが、わくわく事業としての活動は今年度で卒業します。5年にわたり、実際にヤギに会い触れ合っていたり、間接的に支えていただいたりした全ての方に感謝します。

補助金交付額と内訳（補助率 9割）

補助金交付額 68,000円

報償費（27,000円）消耗品費（31,353円）備品購入費（9,882円）

活動状況

ふれあい会の活動



地域性を活かした景観向上事業

団体名：惣田花樹の会

代表者：三宅 貞夫

補助回数：7

活動場所：惣田町



事業の目的

【事業目的】平成27年に団体を立ち上げ、地域の景観向上に取り組んでいたが、中断となり、放任状態である為、町内定住転入者と町内ボランティア団体にも協力を依頼し、町内会の活性化向上に取り組み、美しさや魅力あるまちづくりを実現する。

【今年度事業】雑草処理、花木植樹、植樹場所の雑木処理を実施する。

今年度の活動内容

●事業年度計画打合せ（4月） ●雑草地整備（5月） ●しだれ桃枝打ち（6月） ●下刈り作業（8月、10月） ●植栽作業（10月） ●間伐作業（2月）

事業効果

●ボランティア団体七森会の協力もあり、より良い環境事業ができた。会員の花樹に対する関心が向上したのが良かった。七森会の協力により枝打ち作業が助かりました。●旭高原への観光客も綺麗に咲いていますねと、立ちどまる客が年ごとに増加の傾向にあります。また、近隣の町内会からも花見の声をかけてくれます。

補助金交付額と内訳（補助率 9割）

補助金交付額 187,000円

消耗品費（86,632円）燃料費（43,876円）使用料（15,840円）食糧費（6,101円）筆耕翻訳料（29,700円）原材料費（4,851円）

活動状況



春には花いっぱいになります



作業中の様子



豊田市花いっぱい運動功労賞
の表彰を受けました

林育推進事業

団 体 名：あさひ根っ子の会

代 表 者：林 富造

補 助 回 数：7

活 動 場 所：旭地区



事業の目的

【事業目的】園児や小中学生に林育活動の機会を提供。森林所有者、林業に携わる人たちに、森林再生と森林資源の活用必要性を啓発する。本業務を推進するにあたり、園・学校現場の意向を尊重し、それぞれの計画に沿って各校の実情に合わせながら林育活動を行う。今年度さらに林育事業を広義にとらえ、農林業をはじめとする産業から、観光や地域の伝統的な文化にも触れていく活動に取り組むこととした。

【今年度事業】①杉本こども園園児への林育活動（竹馬作り等）②小渡・敷島小学校児童への林育活動（森の健康診断、各種見学・体験学習支援等）③旭中学校生対象「旭ツアー」の支援④森林再生と森林資源活用必要性を啓発するポスター標語と絵の募集、モリ券デザイン画募集⑤間伐や薪割り体験等を通し、旭木の駅プロジェクトの活動に触れる機会を創出し、地域通貨の利用を通じてその意義を伝える。

今年度の活動内容

●こども園での竹馬づくりを6年継続して行うことができた。●当初の目的であった、森の健康診断や間伐・薪割り体験などの林育活動を「森の健康診断出前隊」と「旭木の駅プロジェクト」の協力を得て実施することができた。敷島小では6年生対象に7年間継続して実施しており、確実に定着してきた。小渡小は複式学級になったことで隔年であるが継続している。●あさひまつりの文化作品展に林育推進ポスターや活動写真また地域通貨券・モリ券のデザイン画の展示することができた。●旭中のわくわく事業「サンライズプロジェクト」を後方支援することができた。●各学年で計画された校外学習にも十分対応でき支援できた。

事業効果

●地域学習に力点を置いて計画を立案している先生方にとって、実際に歩いて調べる活動は重要であるが、この旭地区の広さ、点在している見学場所を歩いて調べるのは、交通機関、掛かる時間等考えると限界がある。レンタカーの用意、講師の紹介や講師を派遣することで子ども達にとっても、大切な学習機会の保証につながり、本活動は十分役割を果たした。●特に今回のようなコロナ禍での各学校の校外学習実施は、融通が利く本事業の必要性を発揮することができた。

補助金交付額と内訳（補助率 9割）

補助金交付額 230,000円

報償費（34,200円） 使用料（179,685円） 消耗品費（7,956円） 印刷製本費（8,712円）

活動状況



太田町林地で間伐体験



つくラッセルでの作品づくり



こども園で竹馬づくり

森は私たちを育て いつかは田舎へ事業

団体名：あさひガキ大将養成委員会

代表者：安藤 征夫

補助回数：8

活動場所：旭地区



事業の目的

【事業目的】①田舎の自然を直接体験し、その良さを感じることによって田舎回帰の思いを育み、結果として将来の旭地域や中山間地域への移住定住に結び付ける。②子育て環境の充実、子どもの居場所づくり③ツリーハウスづくりや遊具づくりなどを通じて子どもの自主性、考察力や課題解決などの「生きる力」を育ませる。

【今年度事業】①ツリーハウスづくり ②田植え、稲刈り、蜜蜂、こども講師講座③保護者や子どもたちが自らの課題あるいは知識を講師として発表する活動④地元の小学校、こども園に田舎の自然を活かした取り組みへの参加機会を提供⑤さくら村経営主体の募集

今年度の活動内容

●遊具づくり教室、蜜蜂生態調査、米作り体験などの自然体験を行った。●ツリーハウスや遊具づくりをほぼ毎月行った。●新割り、草木染、ヒンメリ講座、シャワークライミングや登山、道具の使い方、ロープワークなど自然の中で生きる活動を行った。●豊田市FMとよたによるSDGsマルシェ参加、矢作新報社・新三河タイムス社の記事、また田舎女子講演会や青森県主催の地域づくり講演会にも講師として参加して定住を目的としたガキ大将の活動を周知した。●この活動により敷島自治区が計画したクラウドファンディングへの多くの参加があり、また交流人口の拡大により荒廃農地の復元や田舎移住への希望者が増加した。

事業効果

●コロナ禍の影響を受けながらもほぼ計画どおりの活動ができた。●参加した子どもたちが持つ様々な課題解決につながり保護者からは子どもに自主性ができた、想いを伝えることができるようになった、友達づくりができたなどの評価を多くいただいた。●自然の中で活動することの経験から、田舎への移住相談が増えたとの感触を得た。●この活動が中山間地域の稲武や下山地域に波及して問い合わせが多くなっている。●多くのメディアや行政に活動が評価されて旭の良さ、活動が全国に広まった。

補助金交付額と内訳（補助率 9割）

補助金交付額 1,000,000円

報償費（420,000円）消耗品費（212,500円）燃料費（11,500円）通信運搬費（38,000円）
保険料（5,000円）使用料（31,000円）原材料費（282,000円）

活動状況

ツリーハウス階段づくり



出来ないことを出来るに挑戦する力 ツリークライミング



毎日食べているお米を学ぶ



ツリーハウス女子はカッコいいわ



蜜蜂と人間の関りを学びます

